

## 「介護現場で役立つ医療連携ハンドブック」



### ①目的

高齢者施設等で働く介護従事者の方に対し、医療従事者の方とスムーズな連携を図ることができるよう、高齢者特有の疾患等に関する医療的な知識を習得いただくことを目的とした『介護現場で役立つ医療連携ハンドブック』を作成。

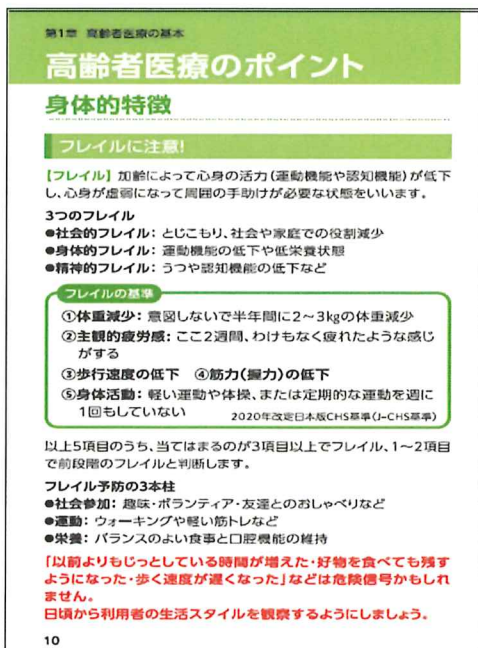
### ②配布先

県内高齢者施設、入所系介護サービス事業所、病院・診療所、地域包括支援センター、市町村 等

Fukuoka medical association



## 記載内容（目次）



### 第1章 高齢者医療の基本

### 第2章 介護シーン別 よくある症状とその対応

### 第3章 重大な疾患への対応

### 第4章 介護職員に求められる医療行為のサポート

### 第5章 主な医療行為の基礎知識

Fukuoka medical association



# 記載内容 (例) ①

第2章 介護シーン別 よくある症状とその対応

## オムツ交換

### 水様性の下痢・軟便

使用薬剤・飲食物を確認  
施設内での流行の有無

**ココを報告!**

- 使用薬剤を確認  
… ㊟下剤の過量投与、栄養剤の濃度が高い
- 飲食物を確認  
… ㊟薬と飲み合わせが悪いものを飲食した
- 施設内で同様の症状が出ている利用者はいないか  
… ㊟食中毒・感染性腸炎

高齢者は食物や水分の摂取不足・運動不足などで便秘になりやすく、下剤の使用により下痢や軟便になることも多いので、まずは薬剤を確認しましょう。また、利用者が薬と合わない飲食物を口にしている場合もあるので、室内に置かれている飲食物やゴミ箱の中を確認しましょう(「薬と飲食物の飲み合わせ」については第1章36ページを参照)。

**【食中毒・感染性腸炎】**  
細菌やウイルスなどが腸に侵入して起こります。下痢のほか、嘔吐・発熱・腹痛を生じ、血便が出ることもあります。施設内で下痢の症状が多く出た場合、集団感染のおそれもあるので調査が必要になります。各施設のガイドラインに従ってください。はげしい下痢によって脱水の危険も生じるため、水分補給を忘れないようにしましょう。

**注意!**  
細菌やウイルスによる下痢の場合、下痢止めを投与すると細菌やウイルスが排出されず、かえって症状が長引くことがあります。はげしい下痢や、下痢が2日以上続く場合は医療者に相談しましょう。

52

■ Bristol便形状スケール

タイプ	形状	非常に硬い 約100時間	非常に柔らかい 約10時間
1	硬くて排便困難なウサギのフンのようにコロコロした便		
2	硬くてソーセージ状の便		
3	表面にひび割れのあるソーセージ状の便		
4	表面がなめらかで柔らかいソーセージ状、あるいは蛇のようなとぐろを巻く便		
5	はっきりとしたしわのある柔らかい半分圓形の(容易に排便できる)便		
6	境界がぼけて、ふにやふにの不定形の薄片便、泥状の便		
7	水様で、固形物を含まない液体状の便		

53

医療従事者へ報告や相談する際のポイントや注意点を分かりやすく記載



# 記載内容 (例) ②

第2章 介護シーン別 よくある症状とその対応

## 日常生活から

### 嘔吐や吐き気

下痢・腹痛・発熱・頭痛・むくみの有無  
施設内での流行の有無

**ココを報告!**

- 下痢・腹痛・発熱があるか … ㊟食中毒・感染性胃腸炎
- 目まい・耳鳴りがあるか … ㊟メニエル病
- 右脇やみぞおちに痛み・発熱があるか … ㊟急性胆のう炎
- 腹部膨満感・腹痛・便秘があるか … ㊟腸閉塞
- 胃痛やみぞおちの痛みがあるか、食欲不振・貧血・体重減少・黒色便があるか … ㊟胃がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍
- 頭痛・しびれ・マヒ・ろれつが回らない・意識障害があるか … ㊟脳血管障害
- 尿量は正常か(乏尿・無尿・多尿ではない)、むくみ・倦怠感があるか … ㊟腎不全

嘔吐や下痢が見られた場合、まずは施設内で同じ症状の方がいないかを確認しましょう。食中毒や感染性胃腸炎(ノロウイルスなど)だった場合、感染防止策など迅速な対応が求められます。そのほか、脳血管障害などの重篤な疾患によって嘔吐をもちやすくなるので、ほかに出ている症状がないかを確認し、医療者に報告しましょう。

**脳梗塞の前兆**

- 視野の半分が見えなくなる
- めまいやふらつきが起こる
- 身体の片側がマヒしたりしびれる
- 舌がもつれうまく話せない

86

**【急性胆のう炎】**  
胆のうは肝臓と十二指腸をつなぐ管の途中にあり、肝臓でつくられた胆汁を溜めておく働きをしています。急性胆のう炎の原因の約9割は、胆のうの中の胆石が胆のうの出口に詰まることから発症します。そして胆のうが炎症を起こしてむくんで腫れ、炎症の進行と共に胆のうが壊死していきます。適切な治療を受ければ多くの場合治りますが、炎症が強いと腹膜炎や敗血症を合併し重篤になることがあるので、早期の治療が大切です。

**【脳血管障害】**  
脳出血、脳梗塞、くも膜下出血などで脳内の血管に障害が生じると、吐き気をもよおします。頭痛やげいししい頭痛、しびれやマヒを伴う嘔吐は重症化している可能性もあり、大変危険です。すぐに医療者に連絡し、救急車を呼びましょう。

**【腎不全】**  
腎不全になると、腎機能の低下により体内の老廃物を尿中に排出できなくなって血液中に有害な物質が増えたり、腎臓から水分を十分に排出できず体内に余分な水分がたまってむくんだり、尿の量が一時的に増えた後に減ったりします。腎不全が進んで尿毒症の状態になると、嘔吐や頭痛、息苦しさ、全身の倦怠感という症状が出てきます。腎不全で嘔吐の症状が出たら危険なサインです。

**■尿毒症の症状例**

- 【眼】 視力障害、眼底出血
- 【口】 尿臭、歯肉出血、味覚異常
- 【鼻】 咳、息苦しい、肺水腫、海水
- 【腎臓】 尿量減少
- 【皮膚】 皮下出血、むくみ
- 【骨】 低カルシウム血症
- 【脳】 意識障害、けいれん、不眠、頭痛
- 【血】 むくみ、貧血
- 【心臓】 心肥大、心不全
- 【胃腸】 食欲不振、吐き気
- 【血液】 尿素窒素・クレアチニン値上昇、貧血
- 【末梢神経】 感覚異常


**注意!**  
食中毒は「夏に多い」というイメージがありますが、実際に発生が最も多いのは9~10月です。朝晩の寒暖差がはげしく体調を崩しがちで、体力や免疫力が低下している高齢者は特に注意が必要です。

87

各疾患の基本情報や注意点を記載



## 記載内容（例）③

<p>第1章 高齢者医療の基本</p> <h3>異常を発見したら</h3> <h4>医療者に報告すべき情報</h4> <p>診察までの間に以下のことを確認しておきましょう。</p> <p><b>身体的情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●現れた症状：発熱・腫れや皮膚の状態・痛み場所・嘔吐・下痢など</li> <li>●現在抱えている病気・過去の病歴</li> <li>●服用中の薬や一時的に使用・服用した薬の名称と、その時間帯</li> <li>●アレルギーの有無、バイタルサイン、ADLの状態</li> </ul> <p><b>バイタルサイン(身体の状態を知るための基本的な指標)</b></p> <p>【体温】 微熱:37℃台 高熱:38~39℃ 重症高体温:40℃台 平熱から1℃以上の上昇を発熱とする考え方もあります。</p> <p>【血圧】 高血圧:最高血圧値140mmHg/最低血圧値90mmHg以上 低血圧:最高血圧値100mmHg未満</p> <p>【脈拍】 頻脈:1分間に100以上 徐脈:1分間に60回未満</p> <p>【呼吸数】 1分あたり12~20回なら正常 低酸素血症:パルスオキシメーターでの計測値95%以下</p> <p><b>環境情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●施設内で流行している感染症の有無</li> <li>●家族の病歴</li> <li>●飲食・飲酒・喫煙情報</li> <li>●家族関係</li> <li>●終末期の医療方針</li> </ul> <p>報告する際は、「血圧が高い」ではなく、明確な数値で報告するようにしましょう。バイタルサインを報告したら、呼吸の際に異音がないか、普段から血圧が高めの人なのかどうか、また入浴介助の際に気づいた皮膚の異常など、介護職員だからこそ、気づけることを報告しましょう。</p> <p>32</p>	<h3>感染対策</h3> <h4>感染対策の基礎知識</h4> <p><b>感染症とは</b></p> <p>病原微生物が外部環境から人体に侵入することで生じます。病原微生物の大半は目で見えませんが、対策を講じるためには感染症に対する適切な知識を身につける必要があります。病原微生物が体内に入り増え始めると感染が成立し発症しますが、感染してから発症するまでにはタイムラグがあり、潜伏期間と呼ばれています。多くの感染症では発症後に感染が広がるため、マスクをつける・休ませる・隔離するなど発症者に注目した対策がとられます。</p> <p><b>感染対策の基本</b></p> <p>重要なのは、原因となる病原微生物を体の中に入れてないように遮断することです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①微生物自体を洗浄・消毒・滅菌し、直接死滅させる(テーブルや手すりなどの環境消毒)</li> <li>②人体に入ってくる感染経路をブロックする(手指衛生など)</li> </ol> <p>介護・福祉施設はADLが低下している利用者のケアなど身体接触をする機会が多く、3密を避けられない場面が多く発生します。感染拡大が起こりやすい環境であることを認識し、対策を徹底しましょう。</p>  <p>33</p>
--	---

Fukuoka medical association



5

## 掲載先

本ハンドブックは、福岡県医師会ホームページからダウンロードが可能です。

お問い合わせ
サイトマップ



公益社団法人  
**福岡県医師会**  
FUKUOKA PREFECTURE MEDICAL ASSOCIATION



福岡県医師会診療情報ネットワーク  
とびうめネット



福岡県医療機関情報案内  
ふくおか医療情報ネット

○本会ホームページ掲載先  
 福岡県医師会ホームページ > 医師の皆様 > 介護保険対策 >  
 介護現場で役立つ医療連携ハンドブック

URL : <https://www.fukuoka.med.or.jp/doctors/kaigo/11643.html>



Fukuoka medical association



6